

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2018.12 vol. 152

平成30年度

循環器病看護エキスパートナース研修

平成30年10月22日～10月26日まで平成30年度循環器病看護エキスパートナース研修が開催されました。国立病院機構九州グループ主催の研修は今回を含め17回目となります。研修生は9施設から14名が参加しました。今年度は研修期間を5日間とし、循環器病看護エキスパートナースとして看護の質の向上を図るため、患者家族の個別性を踏まえた水準の高い看護実践ができる、リーダーシップが発揮できる人材を育成することを目的に研修が行われました。

研修内容は循環器疾患の病態と診断・治療、心臓カテーテル検査及び治療における看護、心臓血管外科術前術中術後の看護、心不全患者の看護、心臓リハビリテーションの実際、薬物療法など、医師や看護師、薬剤師等、多職種の講師による実践に即した講義を行いました。

見学実習では、短時間のスケジュールではありましたが、心カテ室・救急外来、メディカルサポートセンター、ICU、病棟と見学し、それぞれで行われている看護の実際について自施設との違いなどを知る機会となりました。

初日は緊張した様子の研修生でしたが、懇親会では、院長先生や看護部長、研修担当者と郷土料理を囲んで賑やかに話が弾みました。焼酎が好きな研修生や、鹿児島の特産物は何かなど質問もあり、すぐに打ち解けあい施設の情報交換や鹿児島の観光地などを聞く姿が見られました。

研修4日目には、「救急・重症患者と家族のための心のケア」について講義を受け、グループワークを行いました。自施設での看護体験を語り合い、患者・家族に何が起こり、どのような心のケアが必要かという視点で真剣に話し合うことが出来ました。最終日にはこれまでの講義内容や自施設での取り組みを踏まえ、自部署の問題と自己の課題を明確にし、今後の具体的取り組みについてグループワークを行いました。研修生それぞれが自己の課題と向き合い、自部署の課題について悩んでいることを、意見交換を行い発表しました。「心不全の終末期医療に関わっているが自部署での関わりが十分できていない。今までの症例を振り返り学んだことを伝達していきたい。」や「心不全の退院指導について看護師の役割とは何か考えた。多職種まかせとなっているため、今回学んだ事を伝達講習していきたい。受け持ち看護師へ看護師の役割をどのように考えているかアンケートを行い意識調査し、症例ごとのカンファレンスを行いたい。」等研修生の熱意がとて伝わってきました。また、研修期間中は、見知らぬ土地での研修で体調を崩さないか心配しましたが、しっかり体調管理もできていました。研修生の皆様が今回の研修で学んだことを看護実践で活かし、循環器病看護エキスパートナースとして活躍されることを期待しております。

最後に、研修開催に当たりご尽力いただきました講師始め関係職員の皆様に深く感謝申し上げます。

(東6階病棟 福元 京子)



第67回 おはら祭りに参加して



11月2日(金)・3日(土)の2日間、鹿児島市にて南九州最大のお祭り「第67回おはら祭り」が開催されました。当院は11月2日の夜まつりに、医師や看護師、他職種の職員227名、昨年より多い人数で参加しました。おはら祭りに向けて、夕方みんなで集まって踊りの練習を3回行いました。鹿児島を代表する民謡「おはら節」や「鹿児島ハンヤ節」「渋谷音頭」に合わせて踊るのは楽しかったです。

お祭りの当日は、みんなでハッピーや浴衣を着てウキウキした気持ちで写真撮影を行い、院内の外来フロアで大きな輪をつくり最後の練習を行いました。これをみていた入院患者さんはニコニコ笑顔でみていました。19時半頃に会場へ向かいました。夕暮れ時の時間帯は冷え込んでいましたが、ねじり鉢巻きに浴衣姿・ハッピー姿の大踊り連で、意気揚々と踊りを披露することが出来ました。今年は明治維新150周年を記念して開催されたこともあり、沿道には観光の人や地域の方々も多く参加されているように感じました。たくさんの方々の声援を頂き、地域の皆様と一緒に笑顔で参加することができました。また、踊り終わった後は、全員で成し遂げた達成感を得ることもできました。

今回、おはら祭りに参加して、鹿児島医療センター職員のチームワークや団結力を感じる事ができました。そしてなにより院内で披露した時の患者さんの笑顔を思うと、また来年も地域に根ざした鹿児島医療センターの一員として参加したいと思いました。

(医療サービス委員イベントチーム 安楽 祐稀)



おはら祭を終えて

11月3日に行われた第67回おはら祭の総踊りに1・2年生141名が参加しました。事前練習では、指導者の方々や練習に参加されていた方々が丁寧に教えてくださり、地域の方々と交流することができました。学校では、1・2年生合同の練習を通して、学年間の交流を図ることができました。

今年は、明治維新150周年記念の年であり、多くの方がおはら祭に参加しており、熱気にあふれたおはら祭となりました。今回鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校の一員として記念の年に参加し、おはら祭を盛り上げることに貢献できたことを誇りに思います。

学校のカラーである赤色の法被と一人ひとりの個性を活かしたねじりはちまきを身につけた衣装で楽しく踊り、私たちにとっても思い出に残る一日となりました。これからも伝統のあるおはら祭に参加し、鹿児島を盛り上げていきたいと思います。

(おはら祭り実行委員長2年 早崎 佐和子)



大規模災害訓練

第3回目の大規模災害訓練を終えて

さる11月17日土曜日に当院で第3回目となる大規模災害訓練を実施いたしました。今回も、前2回と同様、桜島を震源とした震度5強の地震が発生したという想定で行いました。回数を重ねていることによる慣れや土曜日で学会や他の研修等が重なっていることもあり参加者が少ないのではないかと危惧しましたが、186名の職員の参加があり、災害時対応への意識の高さがうかがえました。やはり、国立病院機構の中で転勤もあり、熊本地震を経験したスタッフがおり、それを踏まえた体制を作ることの意義・体制づくりを説明してもらい、本年9月発生した北海道地震などもあり、いつどこで起こるかわからない災害時の医療機関の役割について意識が根付いてきたのではないかと思います。

回を重ねるにつれ、各エリアで指摘された問題点も改善されてきており、エリア間の連携も図れるようになっていますが、今回の反省でもまだまだ多くの問題点が見えてきました。また、昨年、見学者としてお越しいただいた鹿児島市立病院救急救命センター部長吉原秀明先生からご指摘いただいた事項につきましても改善の取り組みが活かされました。今回は、吉原先生には、評価者としてお越しいただき、お褒めの言葉をいただきましたが、さらなる改善点もご指摘いただき、災害の体制、各担当の行動を更にブラッシュアップしていきたいと思っております。

今回も模擬患者として、多数の当院附属看護学校学生に協力頂いたことをこの紙面を借りて感謝いたします。災害時に備えるには、院外施設との連携や院外医療チームの支援を受けいれてもうまく機能するような訓練も必要となります。次回以降、災害の想定も検討したうえでの訓練を継続していきたいと思っております。

(文責：統括診療部長 松崎 勉)



第1回 城山心腎連関セミナー

去る平成30年9月28日にかごしま県民交流センターにおいて、「第1回 城山心腎連関セミナー」を開催しました。慢性腎臓病（CKD）と心血管病（CVD）の密接な関係は確立された概念であり、「心腎連関」として知られています。多くの臨床研究により、CKDはCVDの最たるリスクファクターであることが示されています。また現在では、「肺腎連関」、「腸腎連関」などの呼称も散見し、腎疾患と多臓器とのつながりが注目されています。今回平成30年4月より鹿児島医療センター腎臓内科立ち上げに伴い本会を開催させて頂き、多くの方にご参加頂きました。

まず一般講演として、「CKD診療における腎臓内科の役割～透析を減らし、選択を支援する～」をテーマに腎臓内科古庄より講演致しました。いかに透析患者を減らすかは重要なテーマの一つであり、治療や進行抑制が可能な疾患を紹介しました。急速進行性腎炎症候群やネフローゼ症候群はいかに早く診断して治療に結びつけるかが進行抑制には重要であり、それぞれの診断・臨床経過のTipsについてお話致しました。また、常染色体優性多発性嚢胞腎（ADPKD）に対しては、2014年よりトルバプタンによる治療が適応となっておりご紹介致しました。次に、高齢化社会に伴いCKD患者も高齢化している現状を踏まえ、高齢者CKD診療のポイントと腎代替療法の一つとして腹膜透析（PD）の有用性について取り上げました。

続く特別講演には筑波大学医学医療系循環器内科・成人難病地域医療学より村越伸行先生をお招きし「心房細動の病態と治療：慢性腎臓病との関連」をテーマにご講演を賜りました。多くのエビデンスやご自身の研究結果を元に、基礎から臨床まで幅広く心房細動について、特にCKDと心房細動の関わりについて詳細な解説を頂き、今回のテーマである「心腎連関」について大変勉強になりました。

今後も腎疾患治療を通して患者様のお役に立てるよう励んで参りますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

（文責：腎臓内科 古庄 正英）



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（心臓病・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

代TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・丹後田・田上・吉永・迫田・中田・椎原・吉留・櫻木・田辺・山之内・前田

【がん相談】 松崎・森・水元・原田・久保・杉本・児玉

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

